

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

☆ 2019年3、4月の経済データを基に、長野県内の景況を把握したものです。

概 要

1. 全国景気 輸出や生産の弱さが続いているものの、緩やかに回復している
2. 長野県内景気 緩やかに回復しているが、一部には弱さもみられる
3. 3月の生産動向 生産は弱含んでいる
4. 4月の個人消費 乗用車販売は2カ月ぶりに前年を上回る
5. 4月の公共投資 公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を下回る
6. 4月の住宅投資 新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を上回る
7. 4月の雇用情勢 有効求人倍率は4カ月ぶりに前月を上回る
8. 今後は、米中貿易摩擦の影響など海外の動向に伴う景気の下振れリスクに注視していく必要がある

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

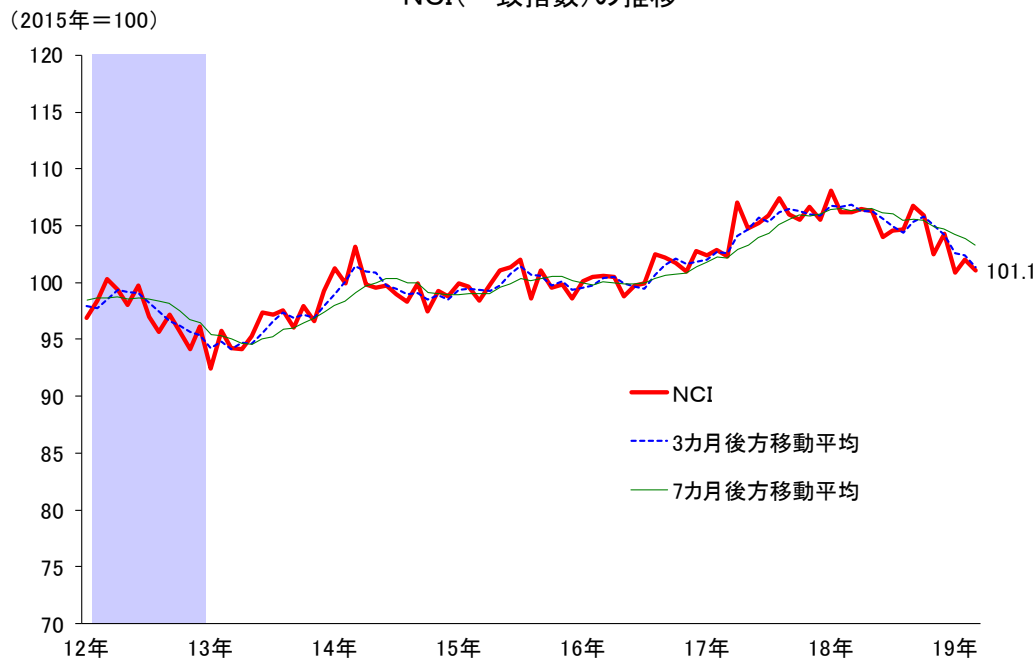
担当 条井、中村（亮）

電話 026-224-0501

景気動向指数

- 3月のNCI(一致指数)は、101.1と前月と比較し△0.9ポイントとなった。3カ月後方移動平均は同△1.1ポイントと5カ月連続で低下し、7カ月後方移動平均は同△0.6ポイントと、6カ月連続で低下した。
- NDI(一致指数)は10.0%となり、2カ月ぶりに景気判断の分かれ目となる50.0%を下回った。

NCI(一致指数)の推移

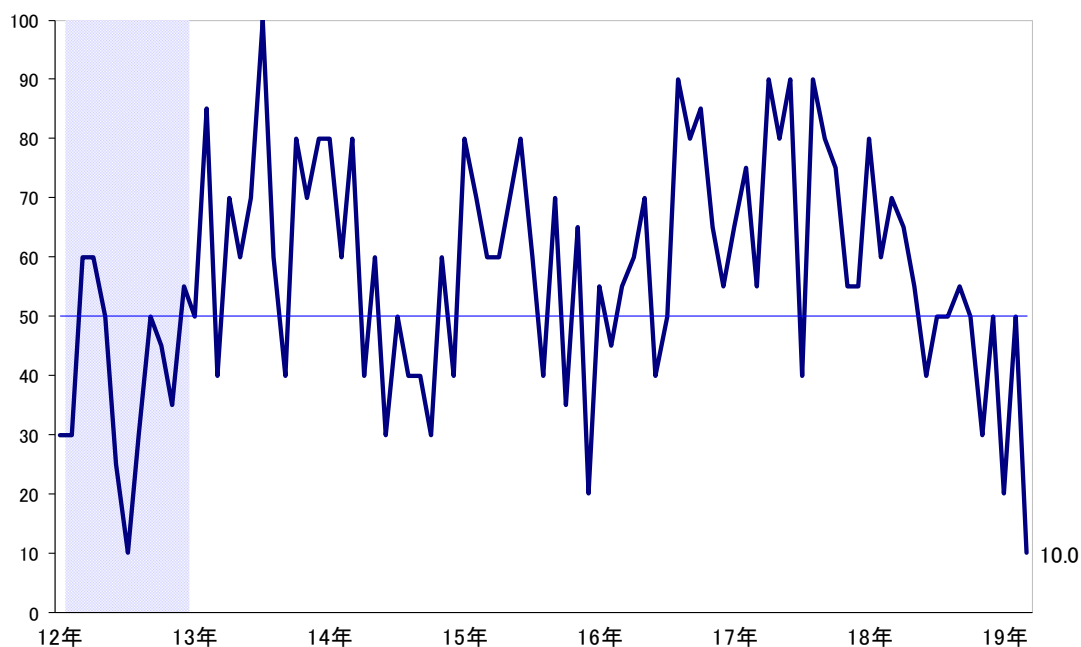


(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」

注1. NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す

注2. シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

NDI(一致指数)の推移



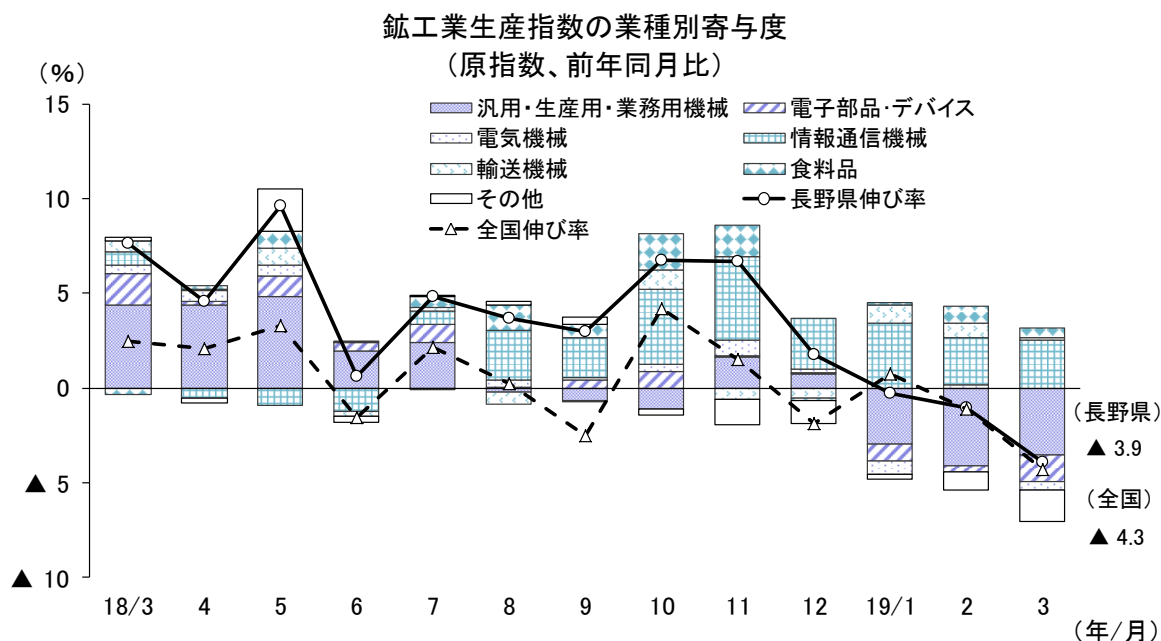
(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」

注1. NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す

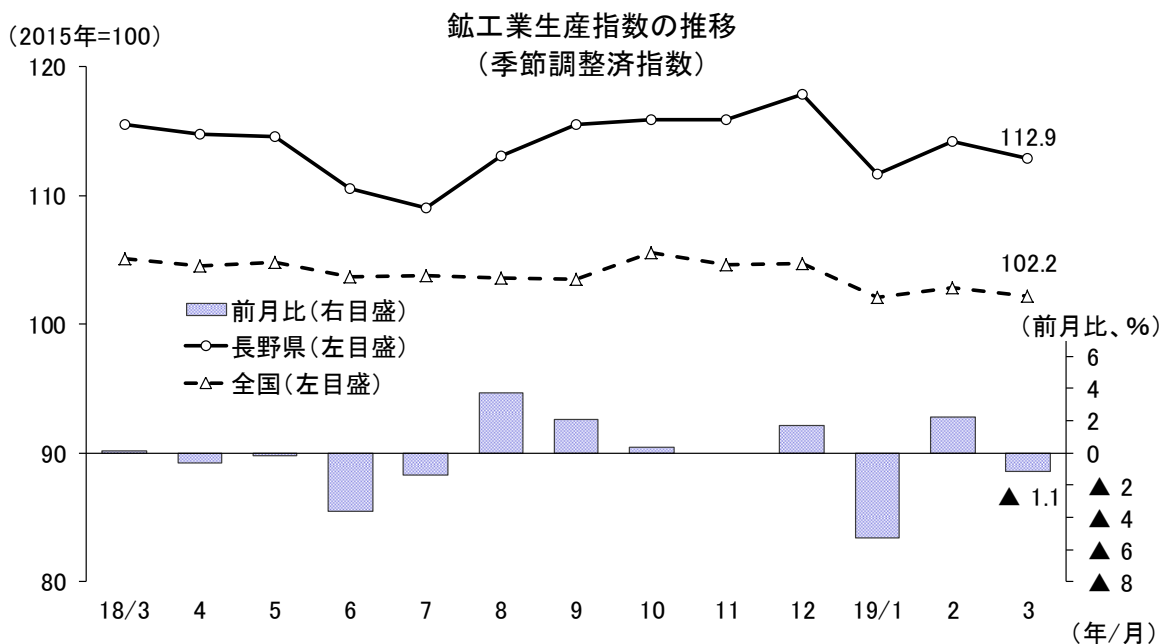
注2. シャドー部分は長野県の景気後退期を示す

生産は弱含んでいる

- ・3月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△3.9%、季節調整済指数は前月比△1.1%となった。
- ・原指数は3カ月連続で前年を下回り、季節調整済指数も2カ月ぶりに前月を下回った。外需に弱い動きが続く中、内需も減速感があり、生産は弱含んでいる。
- ・主要業種別にみると、民生用電子機器等の生産が順調な「情報通信機械」などが前年を上回った。一方、産業用ロボットや金型等の「汎用・生産用・業務用機械」や、電子部品等の「電子部品・デバイス」は前年を下回った。



(資料)長野県企画振興部情報政策課「鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

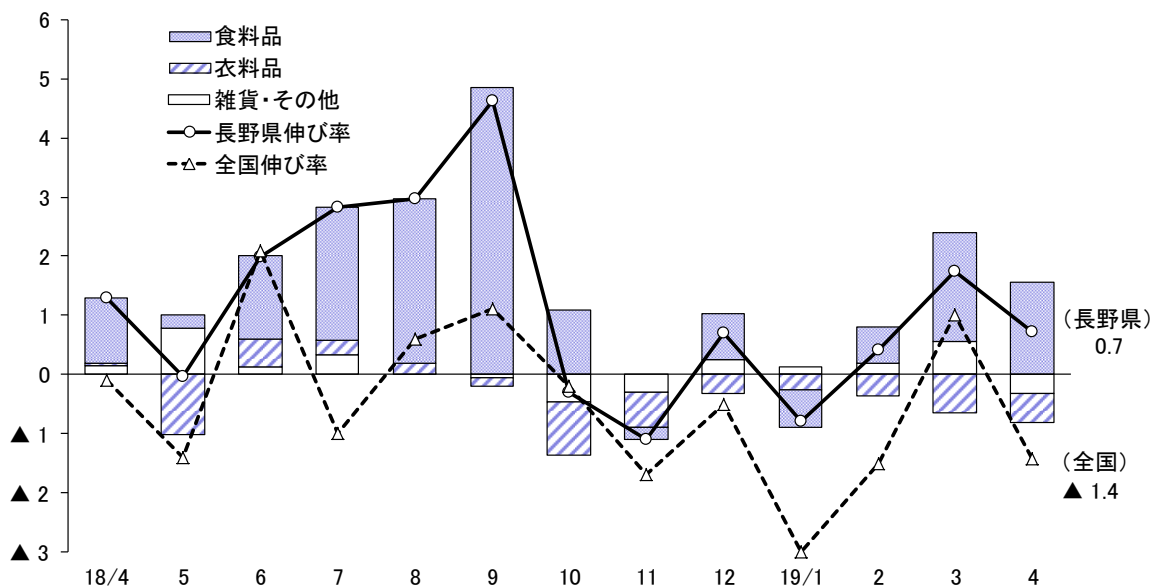


(資料)長野県企画振興部情報政策課「鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業指数」

乗用車販売は2カ月ぶりに前年を上回る

- 4月の大型小売店売上高は、前年同月比+0.7%（売場面積調整前）となり、3カ月連続で前年を上回った。食料品は、物産展など催事による売り上げが増加したほか、生鮮食品や総菜が堅調だったことから、同+1.9%となった。衣料品は、上旬の気温低下などにより春物衣料が振るわず同△7.7%だった。雑貨・その他は、日用雑貨などの売り上げが前年を下回り、同△3.0%となった。
- 4月の乗用車販売は、前年同月比+3.5%となり、2カ月ぶりに前年を上回った。小型車（同△3.9%）は2カ月連続で前年を下回った。一方、スポーツ多目的車（SUV）が好調だった普通車（同+14.6%）は4カ月ぶりに前年を上回ったほか、軽自動車（同+1.4%）が2カ月ぶりに前年を上回った。

(%) 大型小売店売上高の品目別寄与度（前年同月比）

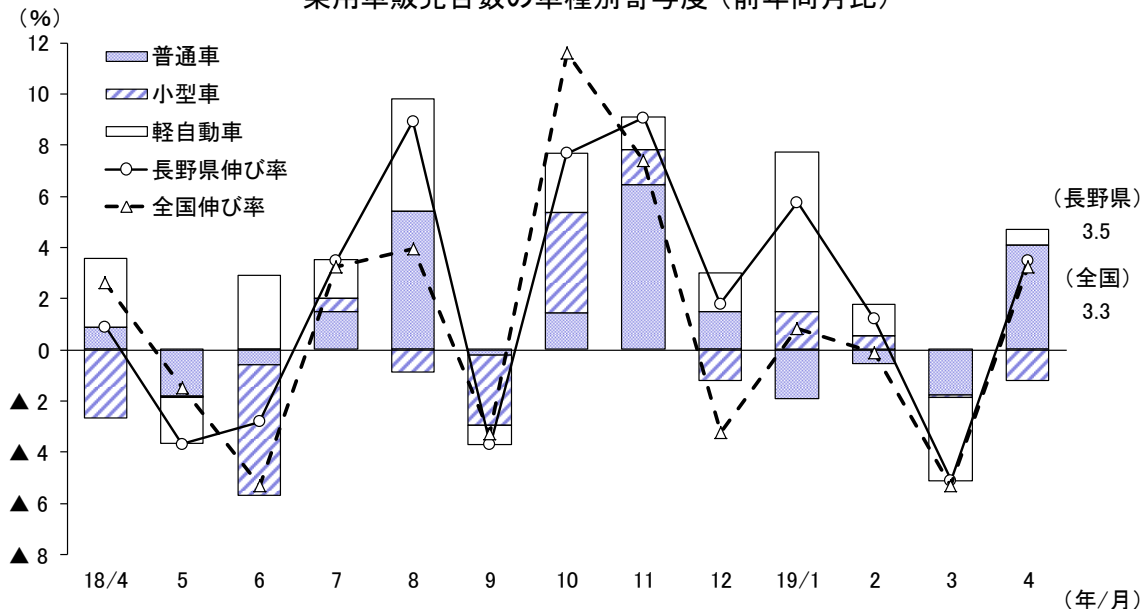


(資料) 当研究所「長野県内大型小売店売上高の動向」、経済産業省「商業動態統計」

(注) 全国伸び率: 当月分は速報値

(年/月)

(%) 乗用車販売台数の車種別寄与度（前年同月比）



(資料) 北陸信越運輸局長野運輸支局「長野県における新車新規登録台数: 乗用車」、一般社団法人日本自動車販売協会連合会

「車種別販売台数」、一般社団法人全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売台数確報」

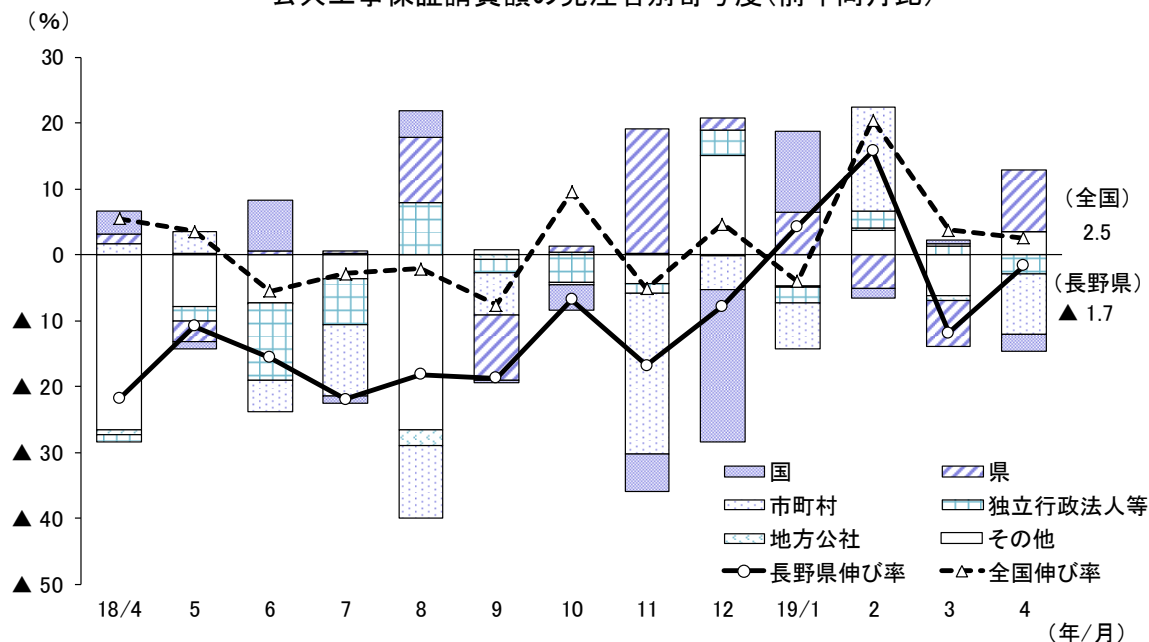
(注) 普通車: 3ナンバー車、小型車・軽自動車: 5ナンバー車

(年/月)

新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を上回る

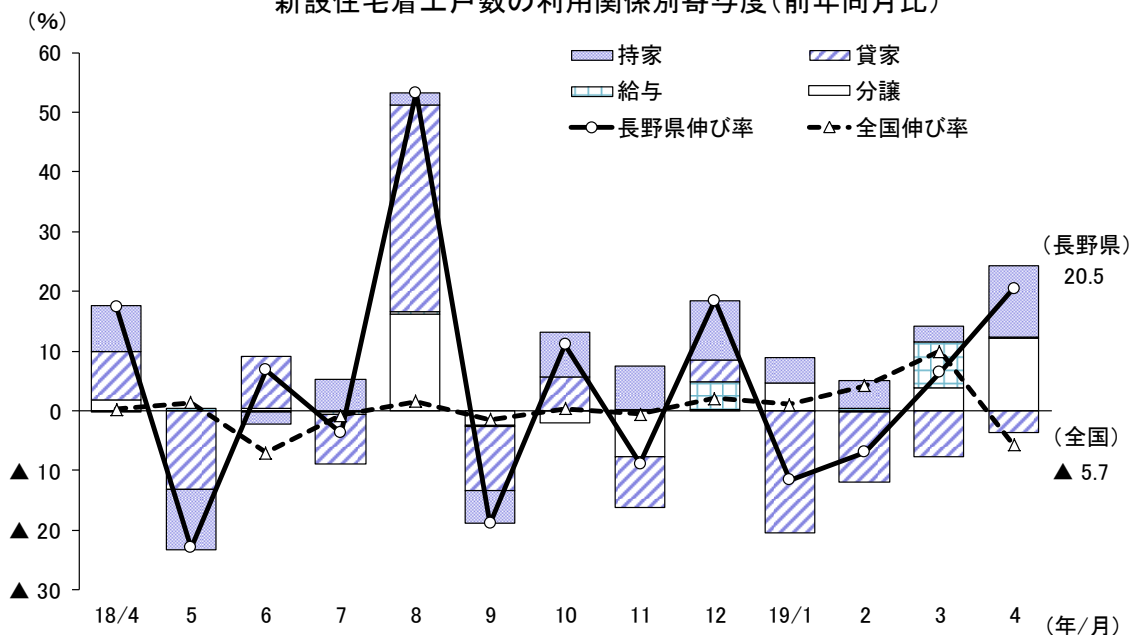
- 4月の公共工事保証請負額は255億100万円で、前年同月比△1.7%と2カ月連続で前年を下回った。発注者別にみると、県(同+43.4%)は増加したものの、国(同△14.6%)、市町村(同△20.9%)、独立行政法人等(同△18.3%)が減少した。
- 4月の新設住宅着工戸数は1,303戸で、前年同月比20.5%と2カ月連続で前年を上回った。利用関係別にみると、貸家(同△12.0%)は減少したものの、持家(同+22.1%)、分譲(同+80.2%)は増加した。

公共工事保証請負額の発注者別寄与度(前年同月比)



(資料) 東日本建設業保証株式会社長野支店「保証取扱高」、東日本建設業保証株式会社「公共工事前払金保証統計」

新設住宅着工戸数の利用関係別寄与度(前年同月比)

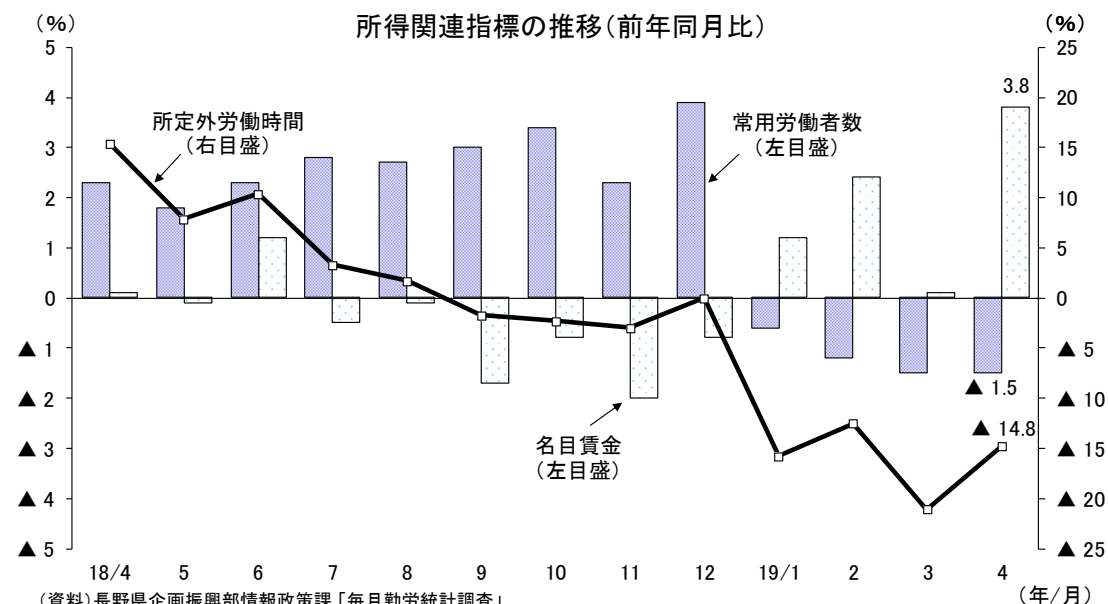
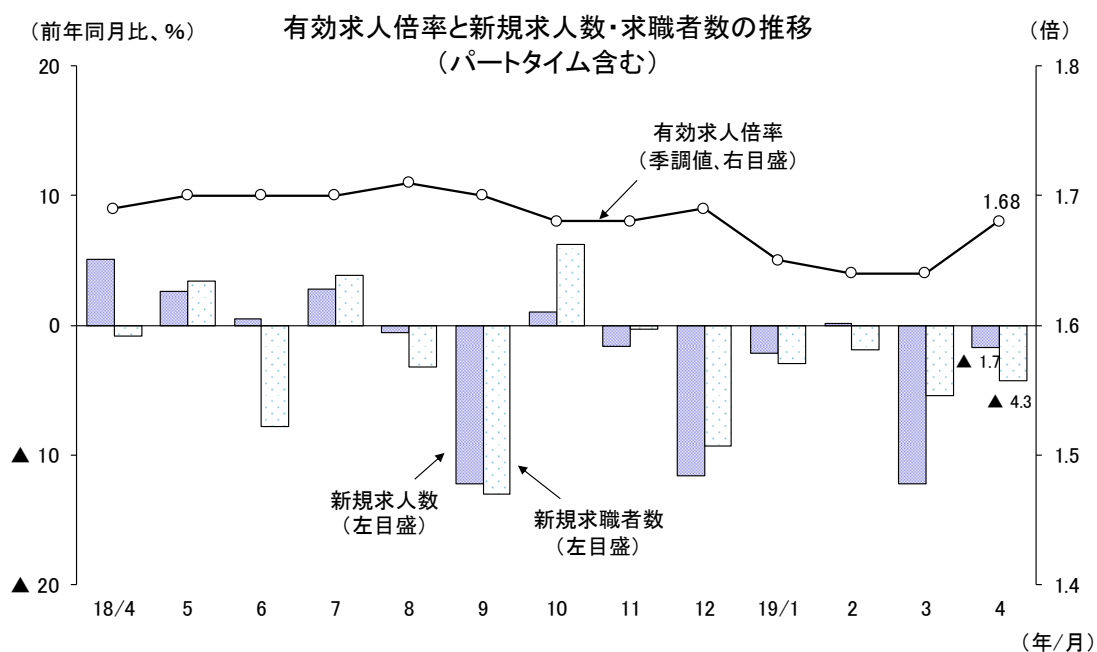


(資料) 長野県建設部建築住宅課「着工新設住宅戸数」、国土交通省「建築着工統計調査」

(注) 給与: 社宅、公務員住宅など

有効求人倍率は4カ月ぶりに前月を上回る

- 4月の有効求人倍率は1.68倍となり、4カ月ぶりに前月を上回った。
- 新規求人数(全数)は前年同月比△1.7%となり、2カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△3.9%、パートは同+4.6%となった。産業別では、不動産・物品賃貸業(同+31.2%)、情報通信業(同+22.5%)などで前年を上回ったが、生活関連サービス業・娯楽業(同△10.9%)、製造業(同△10.4%)、金融業・保険業(同△6.3%)などは前年を下回った。
- 新規求職者数(全数)は前年同月比△4.3%となり、6カ月連続で前年を下回った。
- 常用労働者数は前年同月比△1.5%、所定外労働時間は同△14.8%と、いずれも4カ月連続で前年を下回った。一方、名目賃金は同+3.8%と4カ月連続で前年を上回った。



(注) 1. いずれも従業員規模30人以上、指数比較による対前年同月増減率
 2. 名目賃金はきまって支給する給与
 3. 2019年1月調査から調査対象事業所が変更されたため、19年1月分の数値が改定されている

有効求人倍率が40カ月連続で全国を上回る

- ・4月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比+0.18ポイントの1.63倍、東信が同△0.23ポイントの1.49倍、中信が同△0.03ポイントの1.50倍、南信が同△0.08ポイントの1.47倍となり、東信は5カ月連続、中信は3カ月ぶり、南信は4カ月連続で前年を下回った。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、木曽福島が2.06倍と最も高く、次いで長野が1.94倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は40カ月連続で全国を上回り、全国順位は前月から5つ上げ15位だった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(19年4月)

地 域	北 信(1.63) (前年同月比0.18)				東 信(1.49) (前年同月比▲0.23)		中 信(1.50) (前年同月比▲0.03)			南 信(1.47) (前年同月比▲0.08)		
職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.94	1.40	1.28	1.30	1.44	1.53	1.53	2.06	1.10	1.29	1.54	1.55
前年同月比 (ポイント)	0.45	0.01	0.06	▲ 0.33	▲ 0.19	▲ 0.29	▲ 0.04	0.53	▲ 0.14	▲ 0.22	0.06	▲ 0.10
うち常用	1.65	1.33	1.28	1.19	1.21	1.47	1.34	1.93	1.13	1.20	1.40	1.53
前年同月比 (ポイント)	0.33	0.00	0.02	▲ 0.34	▲ 0.01	▲ 0.28	▲ 0.07	0.35	▲ 0.15	▲ 0.23	0.10	0.00

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

